

令和4年度 佐賀県農業大学校 評価表(計画)

資料 4

教育目標	① 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 ② 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成	○達成度 A:十分達成できている(100%以上) B:概ね達成できている(100%未満~80以上) C:やや不十分である(80%未満~60%以上) D:不十分である(60%未満)
重点目標	1.優秀な入学者の確保 2.高い技術力や経営力の習得 3.全ての学生の進路決定 4.農業者研修の充実	

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な入学者の確保	受験者数	・受験者30名以上	・農大の情報の発信  ・各機関・団体への周知  ・農業系高校等との連携強化	・ホームページを概ね毎月1回更新。 ・農産物直売や実習等週1回の撮影を実施。 ・広報紙「緑旗」の配布、新聞等広報媒体への情報提供  ・全てのJA、市町、農業委員会、普及センターの広報誌に学生募集の記事掲載を依頼。 ・県広報誌に、学生募集の記事掲載を依頼。 ・全ての高校を訪問し、募集要項・ポスターの配布、志願希望者数の聞き取りを実施。 ・高校向けの募集説明会の開催。  ・農業系高校を中心に進路ガイダンスに参加。 ・PR用クリアファイルをガイダンスやオープンキャンパスで配布。 ・同窓会会員に学生募集のPRを依頼。  ・農業系高等学校長との連絡協議会の開催。 ・農業系高校を中心に募集説明会を開催。 ・農業系高校へ出張講義を実施。  ・農校生の農大施設訪問を実施。  ・未来さが農業塾の生徒と農大生との交流を実施。			

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
	オープンキャンパスの参加数	・オープンキャンパス参加者40名以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業系高校等との連携強化</li> <li>・農大の情報の提供</li> <li>・各機関・団体への周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業系高等学校長との連絡協議会の開催。</li> <li>・農業系高校を中心に募集説明会を開催。</li> <li>・オープンキャンパスの開催。</li> <li>・オープンキャンパス時に在校生との交流を実施。</li> <li>・ホームページの概ね毎月1回の更新。</li> <li>・農産物直売や講義・実習等週1回撮影、ホームページへの掲載。</li> <li>・全てのJA、市町、農業委員会、普及センターの広報紙にオープンキャンパスの記事掲載を依頼。</li> <li>・県広報誌に、オープンキャンパスの記事掲載を依頼</li> <li>・全ての高校を訪問し、オープンキャンパスの募集案内を配布。</li> </ul>			
2	<p>【土地利用型】</p> <p>○栽培管理技術の習得</p> <p>・播種から収穫・乾燥調製までの栽培管理技術の習得</p> <p>・スマート水田農業機械の操作習得</p> <p>○農業機械の基本操作と維持管理の習得</p>	<p>・スマート水田農業機械が活用できる学生の割合 100%</p> <p>・一連の作業が機械で出来る到達学生の割合100%</p> <p>到達した学生の割合100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認</li> <li>・学生による栽培計画書の作成指導</li> <li>・スマート水田農業機械を活用した水田作業の指導</li> <li>・スマート水田農業に関する知識の習得</li> <li>・農業機械の操作指導</li> <li>・作物栽培と連動した機械作業の習得指導</li> <li>・機械作業ポイントの作成と他学生への説明会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米麦大豆の基礎的な生理生態、基礎知識の指導。その確認のため、実習試問によって理解度を確認。</li> <li>・米麦大豆の播種から収穫、乾燥調製まで一連の作業を解説し、後日、質疑や作業日誌等での理解度を把握。</li> <li>・GPSトラクターの取り扱い方法の指導実施。</li> <li>・GPS田植機の取り扱い方法の指導実施。</li> <li>・GPS収量コンバインの取り扱い方法の指導実施。</li> <li>・農業用ドローンの取り扱い方法の指導実施。</li> <li>・農業機械の基本操作及び圃場作業の手引書を作成させる。</li> <li>・専攻内で機械操作のポイントを発表させ情報の共有を図り、操作の取得を行う。</li> <li>・大型特殊(農耕車)免許および、けん引(農耕車)フォークリフト免許の全員取得。</li> </ul>			

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
	<b>【露地野菜】</b> ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得 ○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得	到達した学生の割合 100%以上 ・一連の作業が機械操作ができる学生の割合	・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認 ・学生による栽培計画書及び栽培暦の作成指導 ・先進技術を活用した管理作業の指導 ・農業技術検定(3級、2級) ・農業機械の操作指導 ・農業機械の作業点検方法の指導	・毎日の実習記録と観察記録日誌を実施 ・プロジェクト課題の中間報告会を実施し、計画的に遂行できるよう支援 ・GAPに基づく作業管理の実践と技術習得 ・新規品目や品種等の導入と栽培技術の習得 ・農業用ドローンやタマネギピッカー等先進機械を活用した管理作業の実践と技術習得 ・農業検定に向けた専門的知識に関する勉強会の実施 ・トラクター、防除機、定植機、収穫機、管理機等の操作実習の実施 ・機械等の点検の実施			
2	<b>【施設野菜】</b> ○IoT機器を活用した栽培管理技術の習得 ○経営能力の向上 ○GAPの実践を通したよりよい施設園芸の実践	・IoT機器が活用できる学生の育成 100% ・担当する品目の所得の把握ができる 100% ・GAPを実践できる学生の育成 100%	・観察記録と栽培作業日誌の記帳確認 ・IoT機器の活用を前提とした栽培の理論と実際の環境制御技術の指導 ・作型毎の作付け計画の作成指導と進捗管理 ・経営記帳の指導 ・施設野菜の実習におけるGAPの実践	・毎朝の観察と作業日誌記録によって、観察に基づいた管理の意識付けを指導実施。 ・環境測定機器の取り扱い方法の指導実施。 ・温湿度と植物の生育の関係を、実際の栽培を通じて指導実施。 ・週間天気予報を活用した環境設定の指導実施。 ・プロジェクト課題設計検討会と中間検討会を実施し、課題の進捗状況の把握し、効率的・効果的な研究に取り組めるよう指導を実施。 ・プロジェクトで取り組む野菜品目での収量・品質・経費等の記録指導。 ・プロジェクト課題のとりまとめにおいて、所得を算出させる。 ・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。			

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い 技術力 や 経営力 の 習得	【花き】 ○花き栽培に関する基礎知識の習得	・主要花きの育苗から収穫までの一連の栽培技術の基礎的知識を習得到達した学生の割合 100% ※	・主要栽培品目の、播種、育苗から栽培、収穫まで一連の生態、栽培管理の基礎知識及び栽培技術習得 ・作業日誌の記帳確認 ・新規品目作付けへの取り組み ・環境負荷低減のための取り組み ・農業技術防除センターや農業試験研究センター等からの卒論プロジェクト課題に関する情報提供等の支援	・主要品目の基礎的な生理生態、基礎知識の習得。 ・上記品目の播種から栽培、管理、収穫まで一連の作業を解説、実践。後日試問や作業日誌等での理解度の確認。 理解度に応じた個人別指導。 ・担当品目の決定と作付け計画、実践の指導 ・新規品目作付けのため知識習得及び切り花品質向上と開花調節への取り組み ・汚泥堆肥の利用や微生物資材散布による化学肥料や農薬散布回数の低減への取り組み ・関係機関（農業技術防除センター、農業試験研究センター、農業改良普及センター）と連携し、卒論課題は地域課題解決を設定し、結果は地域にフィードバックするように取り組む。			
	○花きの品質保持及び6次加工に関する技術の習得、流通及び販売知識の取得	品質保持及び加工技術の習得到達した学生の割合 100% ※	・収穫後の花きの鮮度保持技術、フラワーアレンジメントなどの加工技術の取得 ・加工品目の市場評価	・収穫後の品質保持技術の知識及び技術の取得。 6次加工（染色、フラワーアレンジメント、加工品）等の技術取得及び、直売や収穫祭を通して消費動向調査。 ・加工した切り花の市場評価			
	【果樹】 ○主要常緑・落葉果樹の栽培技術の習得	到達した学生の割合 100%	・主要常緑・落葉果樹の生理生態理論について指導 ・果樹の高品質・安定生産技術の指導 ・最新の栽培技術の講義および指導 ・県育成品種にじゅうまる等の新品種栽培技術の指導	・各樹種における生育ステージ毎の理論を講義し、実習終了時に気づき及び感想を整理させ習熟度を確認。 ・品目毎に栽培管理計画書を作成指導し、担当品目は生産から販売までの一貫体制を指導。 ・プロジェクト課題等については、農業技術防除センターや果樹試験場と連携し課題解決の方策を指導。 ・温州ミカン「佐賀果試9号」や「にじゅうまる」の技術習得のため、施設・露地圃場に定植し、栽培技術を指導。			
○スマート農業に関する知識の習得	到達した学生の割合 100%	・AI技術を取り入れた栽培管理技術の習得 ・省力栽培技術の習得	・温州ミカン根域制限栽培圃場やトンネルハウスにてブドウの根域制限栽培及びナシ低樹高ジョイント栽培圃場のAIによる肥培管理システムを利用した栽培管理法を指導。 ・ロボット草刈り機およびスピードプレイヤーを導入し、圃場管理作業の効率化を実施。				

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い 技術力 や 経営力 の 習得	○経営能力の向上	果樹経営特性を理解 到達した学生の割合 100%	・果樹経営特性の理解  ・GAPに取り組む	・担当品目の労働時間、使用資材、収量、販売金額等 についての記帳を指導。 ・市況や統計資料等と記帳結果と比較して、担当圃場 での問題点を整理し改善策を検討。 ・プロジェクト課題等においては、試験結果を検証し経 営改善点を整理。 ・GAPに基づき記帳や整理整頓を実践し経営環境を 改善する。			
	<b>【畜産】</b> ○繁殖生理の学習と繁殖 技術の習得	到達した学生の割合 100%	・家畜の性周期、発情兆候の理解  ・家畜人工授精技術の習得及び技術の向上	・繁殖牛発情観察記録表への記入 ・繁殖牛の分娩前観察及び分娩介助 ・家畜人工授精講習会を受講に向け知識と技術の習 得 ・家畜人工授精の実施 ・スマホアプリ活用による繁殖牛の管理方法の実践			
	○家畜栄養の学習	到達した学生の割合 100%	・飼料給与技術の習得  ・各畜種(乳牛、種雄牛、豚)の飼料給与技術の 習得	・飼料給与基本プログラムに基づいた飼料給与の実 践 ・発育状況把握のための体測実施 毎月 子牛の発育状況確認のための子牛セリへの参加  ・畜産試験場での実習実施 31回/年以上			
	○家畜ふん尿処理及び 利用技術の学習	到達した学生の割合 100%	・糞尿の堆肥化処理技術の習得 ・発酵舎などを利用した堆肥処理方法の学習 ・堆肥の散布技術の習得	・畜産試験場堆肥舎での関連作業機械を操作した堆 肥化処理技術の学習  ・ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いた 圃場散布作業実習の実施			
	○飼料作物栽培の学習	到達した学生の割合 100%	・一般的な飼料作物生産技術の習得 ・作業機械操作技術の向上	・夏作、冬作の飼料作物栽培実践  ・作業機械を用いた耕起、施肥、播種、収穫、調整に関 する実習の実施 ・飼料作物生育状況の観察の実施			

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	<b>【農産加工】</b> ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得  ・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得  ○学生発案によるオリジナル商品の開発、定番化	到達した学生の割合100%  開発、定番化商品1商品以上	・漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施  (1年生) ・食品衛生及び野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実施 (2年生) ・農産物の食品加工技術及び商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施  ・農産加工研究会(学生の自主組織)への指導  ・直売での販売動向の把握及び分析	・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術習得 ・農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得(1年、専科) ・食品衛生法や食品表示に関する基礎知識の習得 ・加工演習は一次加工を実施。 ・シーラー機やカップシール機等の基本的な機材操作習得。 (2年) ・レトルトコンポート等のより高度な2次加工技術の習得 ・真空包装機やレトルト殺菌機等の高度な機材の実習。  ・農産加工研究会による試作研究 学生の提案をもとに、農大産の農産物を利用した試作研究。 ・学生発案によるオリジナル商品化に向け支援。 ・直売での販売動向の把握;製造・販売・製造物品質検査記録の記帳の実施による販売動向の把握。			
	<b>【資格等の取得向上】</b>  ○カリキュラムの中で必要な資格取得	資格合格率100%  ※大型特殊免許、けん引免許等  選択性の資格の合格率50%以上 ※農業技術検定、危険物取扱者、家畜商、フォークリフト、狩猟免許等	・研修の充実	・必須の免許・資格の取得 ・農耕用大特免許 ・農耕用けん引免許  ・選択性の免許・資格の取得状況 ・農業技術検定2級 ・農業技術検定3級 ・危険物取扱者 ・毒劇物取扱者 ・フォークリフト ・小型車両系建設機械 ・狩猟免許  ・合格レベルに達しない見込みの者には、適宜補講を行うなどして免許取得レベル向上の指導を実施。 ・資格や免許に対応した特別講義の開催、過去問題を活用した指導等を実施。			

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
3 全ての学生の進路決定	・就農・就職決定率	○就農・就職率 100%	・就農・就職指導の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導専任職員(会計年度職員)の配置</li> <li>・1年生、2年生を対象にキャリアプランニングの講義を実施し、早い段階からの進路指導を強化。</li> <li>・ハローワークとの連携、求人情報の提供</li> <li>・農業大学校での農業法人、企業等の会社説明会の実施</li> <li>・インターンシップの積極的推進</li> <li>・就農準備資金の制度活用支援</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進農家(農業法人を含む)視察研修の実施</li> <li>・若手農業者との意見交換会の開催</li> </ul>			
4 農業者研修の充実	・大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得	○受講待機者の削減  ○免許合格率:95%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講待機状況に併せた研修回数設定</li> <li>・研修の受講辞退者にも対応した受講者の調整</li> <li>・操作技術(特に、けん引)の指導方法の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機者数を考慮し、引き続き、農耕用けん引を6回、大型特殊(農耕車)を18回とする。</li> <li>・市町と受講待機者の情報を共有化</li> <li>・年度当初に、県機関等に受講生を募集。</li> <li>・模範操作の動画や機械模型の作成・活用。</li> <li>・受講生が指導内容を理解しやすいように、無線装置を導入した指導方法の検討を行う。</li> </ul>			
	【さが農業経営塾】  受講者数	○受講者数 (定員の確保) 10名  ○受講者の満足度 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業士、青年農業士、女性農業者、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の受講者、市町、JA青年部等への周知</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション(講座前に実施)</li> <li>・受講者へのアンケート調査の実施</li> <li>・運営委託業者と調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年農業者や女性農業者を対象としたオンラインセミナーを開催することにより経営塾をPR</li> <li>・農業士、青年農業士、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の受講者等へのDM送付</li> <li>・新聞、HP等を活用した情報提供</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査を毎回実施し受講者の理解度を把握</li> <li>・アンケート調査結果をもとに研修内容を調整</li> </ul>			

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	【農産加工支援研修】 受講者数	○受講者数の確保 2講座 15名	・農業青年クラブ員及び女性組織等への周知	・普及センター、農政企画課、さが農村ビジネスサポートセンター等と連携した募集の周知。 ・農大HP等を活用した情報提供。			
		○受講生の理解度 80%以上	・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施	・農産加工の基礎的な知識・技術習得のための講義及び演習を実施。 ・先進地視察研修 ・食品衛生強化研修 ・受講後のアンケート調査の実施。			
		○受講者1人(組織) 商品化を目指した1品目以上の試作	・商品づくりと試作研究への指導 ・新商品開発能力を高める試作研究への指導	・商品化につながる試作品づくり及び新製品の開発能力向上のための支援 ・個別計画作成支援。 ・試作研究演習及び評価等を実施。 ・先進地視察研修 ・食品衛生強化研修			
	農業者組織(農業青年クラブ)活動の活性化	○研修に対する満足度 80%以上	・農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施 ・コロナ禍に適応した研修の開催方法の検討 ・参加後の聞き取り調査等の実施	・各種研修等の開催(オンライン含む) ・農業青年会議 ・さが農業力向上セミナー ・農業青年冬季のつどい ・農大生との意見交換 ・研修後、聞き取り及び反省点等のとりまとめ実施。			
農業者組織(青年農業士)活動の活性化	○研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	・青年農業士を対象に、新型コロナの発生に対応した各種研修の開催 ・参加者へのアンケート調査実施	・各種研修会 ・農業士との合同研修の開催 1回 ・先進地事例調査の実施 1回 ・県外研修への派遣 2名程度 ・研修後に参加者へのアンケート調査を実施				
農業者組織(農業士)活動の活性化	○研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	・農業士を対象とした各種会議・研修会の開催 ・さが農業女子サミット実行委員会の開催 ・参加後の聞き取り調査等の実施	コロナ禍への対応を検討し、以下の内容を行う。 ・各種会議の開催 ・役員会議 4回 ・佐賀県内JA代表者との意見交換会 1回 ・県農政関係課長との意見交換会 1回 ・各種研修会の開催 ・青年農業士との合同研修会 1回 ・九州・沖縄農業士研修会 1回(大分県) ・さが農業女子サミット(女性全体研修会) 1回 ・女性農業士研究会 1回 ・指導農業士全国研究会 ・各部会活動の実施(7部会) ・研修後、聞き取り及び反省点等のとりまとめ実施。				